



上石小だより

～ やさしさ かしこさ たくましさ ～

第 8 号
平成 27 年 12 月 1 日
練馬区立上石神井小学校
校長 高橋 忠太郎

挨拶の意味

校長 高橋 忠太郎

「避難所で活動しているが、こちらが『おはようございます』と声をかけても、地元の人は『おはよう』と返してくれない。『今日は早いねー。今来たの。』といきなり本題に入ってしまう。ずいぶん違う土地に来たんだと思う。」

これは、被災地支援のために宮城県気仙沼市を訪れた関東地方の介護士の言葉で、方言研究を専門とする東北大学の小林隆教授が書いた文章に引用されているものです。小林教授によれば、東北や九州、沖縄には、「おはよう」という朝専用の挨拶がない地域が多いとのこと。

私は、上記の避難所でのやりとりを読んでも特に違和感を覚えることはありませんでした。それは、山形県北部の私が生まれ育った地域でも、朝「おはよう」と挨拶をする習慣がないからです。私の田舎では、今の時期であれば、朝はきっとこんなやりとりがされるはず。

「どさえぐな（どこへ行くのですか）」

「山さ、なめこ取りえぐなだ（山になめこを取りに行くのです）」

「きつけでえてこえな（気を付けて行ってきてくださいね）」

「でっちりとてくっさげな（たくさんとってきますからね）」

避難所と同じで、挨拶なしに、いきなり相手に行き先を聞いています。私の田舎では、夕方でも、余程改まった場以外では、「おぼんです（こんばんは）」という挨拶はしません。村人同士が会えば「ままくたがは（ご飯はもう食べましたか）」「まだくあね（まだ食べてません）」というやりとりが一番先に行われます。もし東京で、挨拶もなしに、突然、「どこへ行くの」とか「ご飯食べましたか」と言われたらどうでしょうか。プライバシーに立ち入れられたようで、ぶしつけに感じる人も少なからずいるはず。

少し長い引用になりますが、小林教授は、「挨拶はきわめて社交的な言語活動であり、相手と良好な関係を築いたり、維持したりするためにある。したがって、様々な立場の人々が共存し、見ず知らずの人たちが入り込む社会にこそ挨拶が必要となる。内輪のよく知った者同士が暮らす社会では、そもそも挨拶の必要性は低かった。挨拶は、社会の複雑さを反映する指標であるとも言える。」と語っています。挨拶は、社会生活に必要であるから存在し、必要であるから使われ続けているということが分かります。

上小の子どもたちは、私が生まれ育ったような狭い社会で生きていくわけではありません。これから進んでいく学校や社会では、多様な人々との新たな出会いがあり、それらの人々と良い関係を築きながら、仲良く生きていかなければなりません。挨拶はそのためになくってはならない武器となるはず。よく、挨拶は社会生活の基本である、と言われます。上小の子どもたちには、全員が一人も漏れなく、小学校時代に、挨拶の習慣をしっかりと身に付けてほしいと思います。

12月の行事予定

- 1(火) 連合音楽鑑賞教室(5年)午後
- 2(水) 4時間授業 下校13時 C時程
(4年3組のみ研究授業のため、5時間授業)
- 3(木) 個人面談① B時程5時間 掃除あり
- 4(金) 個人面談② B時程5時間
- 7(月) 個人面談③ B時程5時間 掃除あり
- 8(火) 個人面談④ B時程5時間
- 9(水) 個人面談⑤ 4時間授業
- 10(木) 個人面談⑥ B時程5時間 掃除あり
- 11(金) 避難訓練
- 12(土) 月曜時間割 4時間
- 14(月) クラブ
- 16(水) 4時間授業
(5年1組のみ研究授業のため、5時間授業)

- 21(月) クラブ
給食費引き落とし日

学納金(給食費・教材費)の今年度最後の引き落とし日です。前日までに、不足がないよう口座の残高確認をお願いいたします。

- 22(火) たてわり給食 ロング遊び
- 24(木) 5時間授業 3年社会科見学
- 25(金) 5時間授業 給食終
- 26(土) 冬季休業始 ～1月7日(木)まで
登校開始日 1月8日(金)

1月行事予定

- 8(金) 給食始 委員会
5時間授業(3・4年)
- 9(土) 月曜時間割 4時間